OpenRTM-aist (Python) - 機能 #425

ログ出力機能

2009/02/26 09:32 - n-ando

ステータス:	終了	**開始日:**	2009/02/26
優先度:	通常	**期日:**	
担当者:	kurihara	**進捗率:**	100%
カテゴリ:		**予定工数:**	0.00時間
対象バージョン:			

説明

以前のログ出力機能を見直し新たなログ出力機構を設ける。
大きく分けると

- ログ出力をシリアライズし、かつ分配するバッファクラス
- ログをフォーマットするフォーマットクラス
  に分けられる。

- バッファクラス
  - マルチスレッド書き込みに対してシリアライズしてバッファリングする
  - 複数の出力先にログを出力できるようにする
  - 出力先の例としては、ファイル、標準出力、リモートのログサーバ等
  - 出力は容易に拡張できるようにする
  - バッファに対してaddStreamで出力先を追加できるようにする

- フォーマットクラス
  - ログレベルを指定して出力できるようにする
  - 書式は、[時間] [ログレベル] [サフィックス] [メッセージ]
  - [時間] [ログレベル] [サフィックス]は自動付加
  - [サフィックス] を指定できる関数を用意する
  - ログレベルは以下に変更(NORMALがなくなってFATALが追加)
    - RTL_SILENT, // 0: ()
    - RTL_FATAL, // 1: (FATAL)
    - RTL_ERROR, // 2: (FATAL, ERROR)
    - RTL_WARN, // 3: (FATAL, ERROR, WARN)
    - RTL_INFO, // 4: (FATAL, ERROR, WARN, INFO)
    - RTL_DEBUG, // 5: (FATAL, ERROR, WARN, INFO, DEBUG)
    - RTL_TRACE, // 6: (FATAL, ERROR, WARN, INFO, DEBUG, TRACE)
    - RTL_VERBOSE, // 7: (FATAL, ERROR, WARN, INFO, DEBUG, TRACE, VERBOSE)
    - RTL_PARANOID,// 8: (FATAL, ERROR, WARN, INFO, DEBUG, TRACE, VERBOSE, PARA)
  - このフォーマットオブジェクトに対するロック・アンロック機能を持たせる

- Manager
  - バッファクラスのオブジェクトは、Managerに唯一のインスタンスが保持される
  - Manager::getLogStreamBuf()で取得できるようにする
  - logger.file_name には複数のファイルもしくは STDOUT/stdout を指定可能にする
  - logger.file_name に STDOUT/stdout を指定すると標準出力へ出力する

履歴

#1 - 2009/03/05 21:21 - kurihara

- ステータス を 新規 から 終了 に変更

- 進捗率 を 0 から 100 に変更

- Pythonのloggingモジュールを用いて実装。

- バッファクラスのオブジェクトはManager.getLogbuf()で取得可能。

- logger.file_name には複数のファイルもしくは STDOUT/stdout を指定可能にする（実装済み）

- logger.file_name に STDOUT/stdout を指定すると標準出力へ出力する （実装済み）